

人工知能戦略本部
(第1回) 議事概要

日 時：令和7年9月12日（金）10:15～10:35

場 所：総理大臣官邸4階大会議室

出席者：別紙のとおり。

議 題：

- ・人工知能戦略本部の運営等について
- ・A I 法に基づく基本計画、指針等について
- ・今後の検討事項等について

議事要旨：

○ 城内人工知能戦略担当大臣から議題について説明が行われた。

○ 審議の結果、議題のうち本部決定を要する事項については、原案のとおりに決定された。

○ 出席者からの発言は以下のとおり。

・村上総務大臣から、「総務省では、これまで広島A I プロセスの推進等、A I ガバナンスの国際的ルール形成、A I 学習用の日本語データの整備・提供、A I の基盤となるオール光ネットワーク等の次世代の情報通信基盤の研究開発等に取り組んできた。A I は非常に「超速」な進歩をしており、諸外国における軍事利用の問題や、人間がA I を制御できなくなるという問題も指摘されている。人工知能基本計画の策定に当たっては、諸外国の戦略や開発状況を十分調査し、日本のA I 戦略を専門性の高い人を集めて深く検討する必要があるのではないかと考えている。」といった発言があった。

・岩屋外務大臣から、「A I は、我が国の経済社会の発展の基盤となる技術であり、今や国力を左右する技術として各国間で開発競争が激化している分野であるとともに、安全保障にも直結する外交上の重要な課題である。「広島A I プロセス」によって、いち早くグローバル・ガバナンスの規範を示した我が国が、国際協力や国際協調を主導することが重要である。外務省としても、首脳会談を含むハイレベルの外交機会や在外公館を活用し、同志国との連携を強化しながら、「安全、安心で信頼できるA I 」を推し進め、

A I を活用してあらゆる分野でイノベーションを促進してまいる。」といった発言があった。

- ・あべ文部科学大臣から、「A I 戦略本部の下、基本計画の策定や指針の整備が進められていくが、文部科学省としても、A I スキルの獲得、また、A I リテラシー向上などを含む幅広いA I 関連人材の育成・確保、A I 研究開発力の強化、科学研究の在り方を変革するA I f o r S c i e n c e の推進などを通じて、世界で最もA I を開発・活用しやすい国の実現に貢献してまいる。」といった発言があった。
- ・福岡厚生労働大臣から、「厚生労働省としては、A I の活用が国民の健康と暮らしの向上に不可欠であると認識している。医療では画像診断支援A I 等の実用化が進んでおり、保険診療でも活用されている。将来的には、熟練医と遜色ない手術ロボットの普及による地域差のない質の高い医療の実現や、A I による創薬の効率化、成功率向上にもつながると考えられ、研究開発を推進している。A I を含むデジタル分野の人材育成についても重点的に取り組んでいる。A I 技術の更なる活用に向け、省内体制も整え総合的に推進してまいる。」といった発言があった。
- ・小泉農林水産大臣から、「我が国の農林水産業・食品産業は深刻な人手不足に直面している。こうした中でも食料安全保障の確保を図るためには、生産性の向上と持続性の確保が重要な課題である。このため農林水産省は、スマート農業技術活用促進法に基づく技術開発などに取り組むほか、農研機構において農業用生成A I を開発し実証を行っている。高度な画像識別やデータ解析・予測等を可能とするA I 技術の重要性は増しており、関係府省と連携しA I の活用を一層進めてまいる。」といった発言があった。
- ・武藤経済産業大臣から、「経済産業省では、これまでG E N I A C プログラムを通じたA I 開発力の強化等を進めてきた。今後もデータ活用を進め、製造業など日本が強い分野のA I サービスやA I ロボティクスの開発・海外展開を後押ししていく。また、グローバル人材が集まる環境を整備し、そこにA I の開発能力も確保していく。関係省庁と連携しながら、世界で最もA I を開発・活用しやすい国作りに貢献してまいりたい。」といった発言があった。

- ・中野国土交通大臣から「国土交通省では、災害の激甚化・頻発化、社会資本の老朽化、生産年齢人口の減少などの課題に的確に対応するため、フィジカルA Iも含めたA Iの活用により、建設現場のオートメーション化i-Construction2.0やインフラの運用・維持管理の高度化など、抜本的な生産性向上に取り組んでまいる。」といった発言があった。
- ・浅尾環境大臣から「A I関連技術の研究開発及び活用の推進に当たっては、環境保全の観点も重要。脱炭素、資源循環、自然再興等において、生成AI等を活用し、受け手のニーズに則した情報発信の実現に取り組んでまいりたい。また、AIを活用した革新的触媒開発を実施し、脱炭素に資する次世代反応技術の社会実装を進めてまいりたい。さらに、データセンター等デジタル基盤の環境配慮技術の開発・実証等を通じて、AI活用の推進に貢献していきたい。」といった発言があった。
- ・中谷防衛大臣から、「安全保障分野においては、A I等を活用した高度なデータ処理・分析を背景とした、新しい戦い方が顕在化している。防衛省においては、目標の探知・識別、指揮統制などの分野でA Iの活用を重点的に進めており、意思決定の迅速化、隊員の負担の軽減、そして省人化・省力化を図り、防衛力の抜本的強化を進めているところである。A Iは今や戦闘の帰趨を左右するものであり、これを積極的に取り入れるとともに、研究開発を通じてA Iイノベーションの推進に貢献をしてまいりたい。」といった発言があった。
- ・平デジタル大臣から、「デジタル庁では、政府におけるA Iの適切な調達・利活用のガバナンス体制の整備を進めている。また、デジタル庁は優秀なA Iエンジニアも抱えており、内製開発で生成A Iの利用環境を構築している。行政の現場での利用状況や課題を把握、検証して、本検証も踏まえて、行政機関全体のA Iの実装を強力に推進してまいりたい。世界最高水準の高度なA Iの開発・利用に向けては、A Iの品質の評価手法の確立など関係機関や民間事業者と共同し、いわゆるガバメントA Iの構築に取り組んでまいる。また、A Iのグローバルな展開には、価値観を共有する国々と戦略的な連携・協力を深める必要がある。実はA Iは、どこで生まれて、どこで育ったかというのは非常に重要なので、是非この点は御留意いただきたいと思うが、その上で、信頼性、

多様性のあるＡＩを国際展開していくことは極めて重要と考えている。加えて、ＡＩ導入に向けたスキームづくりも重要であり、ＡＩの社会実装のための規制制度の点検見直しを、規制改革推進会議の議論も踏まえ、規制改革担当大臣としても進めてまいりたい。ＡＩ戦略本部では、これらの内容も踏まえた計画の策定を期待している。」といった発言があった。

- ・三原内閣府特命担当大臣（こども政策）から、「ＡＩの利活用は、こども・子育て分野における施策推進においても重要なツールであり、本年３月、こども・子育て分野での「生成ＡＩの導入・活用に向けた実践ハンドブック」を作成し、自治体や子育て支援事業者等における生成ＡＩの適切な活用を促している。一方、生成ＡＩによる児童の性的ディープフェイク画像等、子どもの権利侵害につながる問題も生じており、課題解決に向け、関係省庁と連携して対応してまいる。」といった発言があった。
- ・赤澤内閣府特命担当大臣（経済財政政策）から、「日本の課題である人手不足や賃金停滞はフィジカルＡＩやエージェントＡＩで解決を図ることができると考えている。このようなＡＩの徹底的な活用はゲームチェンジャーとなり、産業構造転換の主導権を確保することが不可欠である。また、国内のデジタル関連産業全体の国際競争力強化のためには、ＡＩを核とするデジタルソリューションを創出し、海外展開を強力に促進していくことが必要である。また、令和８年度中の設置を目指す防災庁においては、ＡＩ等の先端技術を活用した災害対応における情報共有、意思決定の高度化などの技術開発と実装を精力的に進めてまいる。」といった発言があった。
- ・城内人工知能戦略担当大臣兼知的財産戦略担当大臣から、「まず、知的財産戦略担当大臣として発言する。イノベーション促進とリスク対応の両立を図るＡＩ法の考え方を踏まえつつ、財産の適切な保護と活用につながる考え方を確保していくことが重要である。こうした方向性に基づく取組が更に充実するよう、関係省庁と緊密に連携してまいる。最後に、ＡＩ戦略担当大臣として発言する。急速な技術進歩と激化するＡＩ開発競争において、我が国の国際競争力を維持すべく、ＡＩ基本計画については少なくとも毎年見直す。指針の整備については、人間中心のＡＩの考え方を堅持し、ＡＩを信頼して活用できる環境を構築してまいる。今後取りまとめていくＡＩ基本計画・指針に対しては、

関係省庁からの積極的な提案と省庁間での連携をよろしく願いたい。」といった発言があった。

○ 城内人工知能戦略担当大臣から、所用により欠席であった大臣の発言が紹介された。内容は以下のとおり。

- ・加藤内閣府特命担当大臣（金融）「A I の進展は、金融分野においても、サービス提供のあり方やビジネスモデルの変革を迫り得るもの。金融庁では、本年3月の「A I ディスカッションペーパー」の公表に続き、本年6月に「金融庁A I 官民フォーラム」を設立した。金融機関やI T事業者等の関係者を交え、A I の活用事例や課題をオープンに議論することで、A I 活用のリスクに対処しつつ、委縮せずにその活用を検討する機会を提供できていると考えている。こうした場を通じて、金融機関におけるA I の健全な利活用を後押ししていく。」
- ・坂井国家公安委員会委員長「A I が社会に大きな変革をもたらす中、治安の確保の観点からも、これに積極的に対応することが必要。警察では、既に犯罪実行者募集情報収集にA I を活用しているほか、来年度から、匿名・流動型犯罪グループの実態解明にA I を活用すべく取組を推進しているところ。他方、A I を悪用して、ランサムウェアを作成した事案等もあり、警察として、法と証拠に基づき厳正に対処しているところ。A I の活用促進と悪用への対処の双方の観点から、政府の検討にしっかりと参画するよう、警察を指導してまいりたい。」

○ 石破内閣総理大臣より、以下のとおり発言があった。

- ・9月1日に、先の国会で成立した『A I （人工知能）法』が全面施行されました。内閣総理大臣を本部長とし、全閣僚を構成員とするA I 戦略本部の下、政府一丸となって『世界で最もA I を開発・活用しやすい国』を目指してまいります。
- ・A I は、社会課題の解決や産業競争力の強化を実現する技術であり、安全保障上も極めて重要であります。世界でA I 開発競争が激化する中、我が国も、反転攻勢をかけるべく、早急に必要な支援策や制度的対応を講じていく必要があります。

国家戦略として、省庁横断的に、ＡＩによるイノベーションを本格的に推進していくため、城内大臣を中心に、４つの基本的な方針で、『人工知能基本計画』の策定を開始してください。

- ・第一の柱は、『ＡＩを使う』です。様々な課題解決にＡＩを使うことで、ＡＩの性能が向上し、日本で開発が更に進むという、好循環を生み出していくことが必要であります。ＡＩを活用した介護ロボットや見守りシステムが、地域の高齢者の健康と快適な日常生活を支える取組が始まるなど、国内でもＡＩの利用が進んできております。政府も率先して、ＡＩを適切に利用するよう取組を進めるとともに、規制・制度について、ＡＩの利活用を前提に、先回りして改革を進めていくことが重要であります。
- ・第二の柱は、『ＡＩを創る』、クリエイションの方ですが、『ＡＩを創る』です。ＡＩを国内で研究・開発できる能力を強化するため、フィジカルＡＩやＡＩ基盤モデルの開発や導入支援を進めるとともに、これらを支えるデータセンターや電力・通信インフラ等の確保を進める必要があります。
- ・第三の柱は、『ＡＩの信頼性を高める』であります。不正な目的や不適切な方法により、国民の皆様の権利・利益を侵害することがないように、ＡＩ法に基づく調査研究や、ガイドラインの整備を進めるとともに、国際的なガバナンスの形成を主導していくことが重要であります。
- ・最後の柱は、『ＡＩと協働する』であります。ＡＩは雇用や産業等、国の在り方を大きく変えますが、ＡＩによって、人が幸せになるような社会を築いていくことが重要であります。そのために必要な制度や社会の仕組み、産業や雇用の在り方について、検討を進め、基本計画に盛り込んでください。以上であります。

(議了)

(別紙)

出席者一覧

石破 茂	内閣総理大臣
林 芳正	内閣官房長官
	沖縄基地負担軽減担当
	拉致問題担当
城内 実	経済安全保障担当大臣
	内閣府特命担当大臣（クールジャパン戦略 知的財産戦略 科学技術政策 宇宙政策 人工知能戦略 経済安全保障）
村上 誠一郎	総務大臣
岩屋 毅	外務大臣
あべ 俊子	文部科学大臣
福岡 資麿	厚生労働大臣
小泉 進次郎	農林水産大臣
武藤 容治	経済産業大臣
	原子力経済被害担当
	G X実行推進担当
	産業競争力担当
	内閣府特命担当大臣（原子力損害賠償・廃炉等支援機構）
中野 洋昌	国土交通大臣
	水循環政策担当
	国際園芸博覧会担当
浅尾慶一郎	環境大臣
	内閣府特命担当大臣（原子力防災）
中谷 元	防衛大臣
平 将明	デジタル大臣
	デジタル行財政改革担当
	行政改革担当

	国家公務員制度担当
	サイバー安全保障担当
	内閣府特命担当大臣（規制改革　サイバー安全保障）
伊藤　忠彦	復興大臣
	福島原発事故再生総括担当
三原じゅん子	内閣府特命担当大臣（こども政策　少子化対策　若者活躍　男女共同参画　共生・共助）
	女性活躍担当
	共生社会担当
赤澤　亮正	経済再生担当
	新しい資本主義担当
	賃金向上担当
	スタートアップ担当
	全世代型社会保障改革担当
	感染症危機管理担当
	防災庁設置準備担当
	内閣府特命担当大臣（経済財政政策）
伊東　良孝	内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策　消費者及び食品安全　地方創生　アイヌ施策）
	新しい地方経済・生活環境創生担当
	国際博覧会担当
瀬戸　隆一	内閣府副大臣
高村　正大	法務副大臣
土田　　慎	財務大臣政務官
橘　慶一郎	内閣官房副長官
青木　一彦	内閣官房副長官
佐藤　文俊	内閣官房副長官
阪田　　渉	内閣官房副長官補
河邊　賢裕	内閣官房副長官補

小林 麻紀	内閣広報官
濱野 幸一	内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局長
福永 哲郎	内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 政策統括官（科学技術・イノベーション担当）